

「東京ベイエリアビジョン」(仮称)の検討に係る官民連携チーム
ワーキンググループ(第3回)議事要旨

魅力あるまちづくりWG

日時：平成30年12月3日(月) 14時00分～17時00分

場所：都庁第一本庁舎 11階11A会議室

＜WGでの主な意見＞

- ・前回の議論で国道357号線を軸に、都市化しているエリアとそうではないエリアに分かれるが、都市化したエリアでも建物や街区のスケールは異なる
- ・佃のような街区が小さいエリア(Sサイズ)、豊洲や台場のように街区や建物が大きいエリア(M・Lサイズ)、中央防波堤地区などのそれ以上に街区が大きい(既成市街地が存在しない)エリア(XLサイズ)など、現状としてベイエリアの中で特性が存在
- ・都心から徐々にS(築地や佃)⇒M(勝どき)⇒L(豊洲・台場)⇒XL(海の森等)の順で、海面に近づくほど街区が大きくなる
- ・今後ビジョンを考えるうえでの方向性として、既成市街地が存在しないエリア(XLのエリア)では大きなスケールを活用して実験都市や自然を活かした集客施設(グランピングや別荘地)などダイナミックな検討が可能。
- ・街区が大きいエリア(Lサイズ)では、そのスケールを活かした方向づけやネットワークを検討
- ・既成市街地が存在する街区の小さいエリア(S・Mサイズ)では既存の特性を活かした方向づけを検討すべき
- ・各エリアが有機的に繋がることで、SがMやLとなったり、XLのまちにSが入り込んだりすることを織り込んでいく
- ・どのようなハード整備をすべきかは、他WGで議論されているソフト面を反映していくことも必要

＜本日の議論のまとめ＞

- ・12月の第1回提案ではこのような認識を共有し、具体的な各エリアの色付けやアイデアは次回提案までに深掘りしたい

活力と躍動感のあるまちWG

日時：平成30年12月11日（火） 14時00分～16時00分

場所：都庁第一本庁舎 11階11A会議室

<WGでの主な意見>

- ・競合する各企業、大学、研究室などが、本来なら別々の場所で行っていたことを1つにまとめた未来型オフィス、ファクトリーがあると面白い
- ・コンテナを利用した水上アトリエなど、アトリエの新しい形ができるとクリエイターが集まりやすいのでは
- ・ごみ処理状況をガラス越しに見学して楽しいと感じたことがあり、ネガティブなものを可視化してポジティブにしていけると面白い
- ・東京には墓地が少ないことを踏まえ、ホログラムなどの新しい技術を利用したイベント等を霊園で行うなど、行きたくなる霊園があると良い
- ・この世にはいない祖先や偉人を最先端技術で再現し、本来なら交わらない人と出会う機会を創出できると面白い

<本日の議論のまとめ>

- ・提案の軸として2つのものをつなぐ「接点」という要素と、個人やまちのレベルで「生き続ける」という要素をあわせ、コンセプトとして提示する
- ・提案内容は、4つの柱（1. 何度でも訪れたくなる、2. 多様なライフスタイルを支える、3. シビックプライドを醸成する、4. 未来への実験都市としての姿を描く）の構成が良い。今回のWGで出た意見を4つの柱の中に盛り込み、第1回の提案としてまとめる

最先端技術のまちWG

日時：平成30年12月10日（月） 14時00分～16時00分

場所：都庁第一本庁舎 11階11A会議室

<WGでの主な意見及びまとめ>

○提案におけるビジョンについて検討

- ・前回WGで議論をした「①社会に対する貢献（SDGs）」「②自由（人が制約を受けない）」の2つのビジョンについて、改めて検討
- ・「社会」とは「持続可能な社会」、「自由」とは「人間の新しいあり方を示す」「制約からの解放」というイメージ
- ・提案のビジョンを「①持続可能な社会の実現」「②できないことのないまち」とする

○ビジョンを実現する手段

- ・技術が集まってくる環境の整備・技術と触れあう機会の創出について検討することが必要。提案には「技術のショーケース」「教育・人材育成」という視点を入れる
- ・自由度のあるルールを設けることが必要。おおまかなガイドラインは策定するが、技術の普及に合わせてルールを変えていく等

<提案の方向性>

- ・第1回提案では、具体的な技術（現在存在する、または、数年で実現されることが予想される技術）を示したうえで、まちのビジョンを示す
- ・その後、第2回提案に向け、実現に向けた具体策（技術の深度化や環境整備）について検討していく